

デジタルギャラリー「インキュナブラコレクション」 —図書館からの国際発信に向けて—

とくなが さとこ
徳永 聡子
(文学部助教)

1 はじめに

メディアセンターでは、慶應義塾図書館が所蔵する貴重書や特殊資料の整備とデジタルアーカイブ化を進めている。その成果のひとつが、2006年春に公開した「慶應義塾図書館デジタルギャラリー」である。一般には大学図書館所蔵の貴重書を閲覧するのは容易ではない。こうした歴史的資料に親しむ機会を、インターネットを通してより多くの人に供することが、本デジタルギャラリーの担う役割でもある。このためコンテンツ配信の対象は、専門家だけでなく、国内の一般読者も視野に入れることが、制作時の方針にあった。

筆者が編集を担当した「インキュナブラコレクション」のページでも、この方向性に従い一般読者を意識した日本語による解題を用意した。しかしグローバル化が進むなか、図書館からの発信も、国内のみに向けた閉じたものではなく、より広く外に向けた国際的な発信が求められつつある。こうした期待に応じるべく、英語版「インキュナブラコレクション」の制作に取り組み、今夏公開するまでに至った。

本稿では慶應義塾のインキュナブラコレクションとギャラリーの概要、そして今回のリニューアルについてまとめた。

2 慶應義塾図書館のインキュナブラ

インキュナブラとは、グーテンベルクが考案した活版印刷術の登場から1500年末までに、ヨーロッパで活版印刷された印刷物全般を指す。欧米の研究図書館では、図書館の格をはかる尺度のひとつとして、所蔵する手書き写本や初期印刷本などの質と量が問われるが、とりわけインキュナブラや中世写本は重要な要素として考えられている。

現在、慶應義塾図書館では、総計56版56コピーの冊子体のインキュナブラ（科学研究費等の補助金によって購入された図書館への寄託本も含む）を所蔵している。これ以外にも斯道文庫には永青文庫の

1版2コピーが寄託されており、慶應全体での蔵書数は、国内の図書館のなかで1、2を競うといっても過言ではない。

最大の目玉は、言うまでもなくグーテンベルク聖書であるが、これ以外の書物も注目にあたいする。たとえば、イギリスに活版印刷術をもたらしたウィリアム・キャクストンの印行本が2冊あるが、いずれも現存数は少ない。その内の1冊『トロイ歴史集成』は英語で書かれた最初の印刷本である。またキャクストンと同時期に活躍したセント・オルバンズのスクールマスター印刷業者が刊行した年代記や、キャクストンの次世代として活躍したりチャード・ピンソンによる印行物など、イギリス印刷関連資料は慶應コレクションの最大の特徴でもある。この他にも、中世の百科事典の代表格であるヴァンサン・ド・ボーヴェの『歴史の鑑』を含む『知識大鑑』4部作など、科学思想史分野の収書も積極的に取り組まれてきた。

3 慶應義塾図書館デジタルギャラリー

デジタルギャラリーでは、慶應義塾図書館が所蔵するインキュナブラについて、画像付き解説を含んだオンラインカタログを発信している。デジタルアーカイブが盛んな現在、所蔵の貴重資料の情報をオンライン上で公開している図書館は国内外に数多あるが、本デジタルギャラリーのように、詳細な書誌情報、解題、デジタル画像を所蔵本ごとに用意した本格的なオンラインカタログはまだ少ない。

ここで簡単ながらデジタルギャラリー「インキュナブラコレクション」の構成（日本語版）を紹介しておきたい。ギャラリーのトップ画面ページには主要コンテンツが並び、この中の「インキュナブラコレクション」をクリックすると、本サイトの前書きページに飛ぶ。さらにこのページの右上にある「コレクション全点」をクリックすると略題付きサムネイルが全点表示される。この配列には本コレクショ

ンの形成史が反映されるよう、収蔵年順に並べ、あらたに IKUL (Incunabula of the Keio University Library) 番号をつけた。この配列を採用することで、個別の書物だけでなく、合冊本全体としての解説も連続して閲覧できるよう工夫している (例: IKUL 031 など)。

サムネイルをクリックすると、各書物のページが開き、書誌情報が上段に、下段には義塾関係者による解説が載っている。前者はインキュナブラ目録の国際標準である Incunabula Short Title Catalogue (ISTC) のオンライン版をもとに、著者名、書名、訳者・注釈者・編者、印刷地、印刷者、印刷年、判型などの書誌データをまとめたものである。これに加えて、欠葉、装訂、来歴など、慶應本に特化したデータも可能な範囲で記録を試みた。

教職員、大学院生などの協力のもと作成した解題では、全体的な方針として、その著作の文学・歴史的背景、印刷史における位置づけ、慶應本独自の特徴をバランスよく押さえることを目指した。また既刊の目録などに記述がある場合は、執筆者と出版社から了解を得て転載している。

書誌情報と解題に加え、読者が実際の書物のイメージをとらえやすいように、各書物の題扉や奥付、挿絵や書き込みなどがあるページのデジタル画像も載せている。この画像取得の際には、慶應義塾大学 HUMI (Humanities Media Interface) プロジェクトの関係者から技術移管を受け、実際の作業はメディアセンターのスタッフが行った。

http://project.lib.keio.ac.jp/dg_kul/incunabula_tbl.php



4 英語版デジタルギャラリーの公開へ

専門家以外の読者にも広く慶應のコレクションや印刷史への関心をもってもらうことが、ギャラリー設立当初の最大の目的であったが、次なる課題は、書き込みなど慶應本に特化した情報を専門的に精査することである。しかしながらインキュナブラの場合、国内には専門家が数えるほどしかいないため、慶應本の研究を進展させるためには、日本語の発信だけでは充分ではない。

そこで取り組んだのが英語版の制作である。具体的には、日本語版の解説の英訳を各執筆者に担当してもらい、さらにその原稿の校閲を専門家をお願いした。とりわけ大英図書館の初期刊本部長ジョン・ゴールドフィンチ氏から専門的なフィードバックを受けたことで、解題がより充実したものとなったことは今回の最大の収穫でもある。これはやはり英語版ゆえに得られるメリットであろう。今回のリニューアルによって各書物には日本語・英語の解説が付された。各ページの右上にある 'Japanese/English' をクリックすることで、簡単に言語を切り替えることができる。今後このバイリンガル版の公開によって、さらに多くの関心が慶應本に向けられ、教育的コンテンツとしての活用、コレクション研究の活性化などが進むことが期待される。一方で、このデジタルギャラリー作成から得た技術的、学問的な成果やネットワークを、今後の貴重書のデジタルアーカイブ化に生かしていきたいと考えている。

なお本サイトは、文部科学省が進めるオープン・リサーチ・センター整備事業 (ORC) の補助金に採択された慶應義塾大学デジタルアーカイブ・リサーチセンター (DARC) と慶應義塾図書館との協力で制作されたことを付記しておく。

参考文献

- ・ Incunabula Short Title Catalogue (ISTC). (オンライン), 入手先<<http://www.bl.uk/catalogues/istc/>>. (参照 2008-06-30).
- ・ 慶應義塾図書館デジタルギャラリー. (オンライン), 入手先<http://project.lib.keio.ac.jp/dg_kul/index.html>. (参照 2008-06-30).
- ・ 徳永聡子. "慶應義塾図書館とインキュナブラー収集, 整備, 公開へ. 慶應義塾大学日吉紀要". 英語英米文学. no. 52, 2007, p. 59-82.